


 ずいそう

## 半世紀を振り返って

衣 笠 敏 文



小学校低学年の時、自転車で交差点信号待ちをしていると、対面に親戚のおばさんがいるのを見つけた。そこで格好付けたかったのか、信号が青になる直前にダッシュで飛び出し、道路中央で右折した。すると私の左側を猛スピードで車が通り過ぎた。その時何故右折したのかは記憶が無いが、もしおばさんの方へ直進していたら、私は今ここにはいない。

高校受験の時、志望校定員数+約20名位オーバーとなっており、特に気にする事もなく当日受験。すると試験問題がとんでもなく難しく(私にとって)全く出来なかった。休憩時間に全てのクラスの欠席者数(各部屋黒板に書かれていた)を数えると、定員数+1名オーバー。いくら何でも、私より1名位は出来なかった人がいるだろうと自分に言い聞かせて帰宅。結果は無事合格した。

大学受験の時、自分が何を専攻したいか決まらず、1年浪人を経験した。

結局、自宅近くの大学へ入り、何曜日か分からぬ生活を送ったが、何故か4年間で卒業出来た。

日工株式会社に入社したのも、決して第1志望ではなかったが、何故か今でもお世話になっている。入社する前は、社内結婚みたいなダサイ事はやめておこうと思っていたが、何故か今の家内は、会社の同期生である。

1995年1月16日(日)夜、家内が陣痛となり、病院へ連れて行き、病室で待機していた。実家の2階で寝ていた息子(2歳)が心配だったので、下で寝ていたおばあちゃんと一緒に添い寝を頼んだ。翌朝5時46分、例の大震災に見舞われた。病院は高砂市にあり、震源地からは西へ約20kmの地点であったが、今までに経験した事の無い程の大きな揺れだった。今の様に携帯電話は持っておらず、公衆電話からも全然繋がらない状態であった。

実家のおばあちゃんは、朝5時頃に起床し、下へ降りていたらしい。息子は1人で真っ暗な部屋で寝ていたので、どんなに不安だっただろう。この事が今までで最も悔いが残る。

幸い家族は全員無事で、その日の朝8時娘が生まれた。

その年の3月16日(木)、会社からの指示で、道路講習会へ行く事になり、住んでいた姫路から、JR在来線、神戸一区間で代替バス等乗り継ぎ、2時間半掛けてやっと新大阪(通常では40分足らず)。そこから新

幹線に乗り、東京から初めて丸ノ内線に乗り、霞が関ニッショーホールへ。講習会は2日間(16日~17日)であった。翌週の月曜日(3月20日)朝、地下鉄サリン事件。あと数日ずれていたら、私は今ここにはいない。

2000年4月東京転勤となった。今までは東京に転勤するとは夢にも思っていなかったが、家族を連れて4年間東京での生活を送った。転勤間もなく、自分の子供が標準語をしゃべっているのに驚き、それも時間と共に慣れてくると、逆に関西弁に違和感を感じる様になり、自分も標準語(に近い?)をマスターし、バイリンガルになった(英語は未だにマスター出来ないが)。

今まで、幾度となく分岐点で何かを選択してきた結果が、今の自分であり、逆にほんの一瞬の違いで、人生が全く変わってしまったかも知れない。今私がここで生きているのは、運が良いのか、御先祖様のお蔭か(笑)。

学生時代は、比較的ワガママな人生を送ってきたので、社会人になってからは、少し真面目にやろうと志すが、やはり自分の思い通りにいかない事が多々あり、ストレスが溜まるのは世の中の常。しかし、私もとうとう50歳を超えてしまい、これからは健康に留意しないといけないと思う様になり、いかにストレスを溜めない様にするかが、重要になってくる。

例えば、通勤中、雨天でも傘を使わなかった(電車を降りると、偶然止んだとか、帰宅後に大雨になった)。

休日、ゴルフに行き、TショットがOBしてしまったが、行ってみると残っていた。

運転中、赤信号に殆ど引掛からずに行けた。

高速道へ入る予定だったのが、交差点を走り過ぎて、間違っって一般道を走っていたら、高速道が大渋滞していた。

休日、買い物へ行った際、普段行かない店に入ると、たまたまバーゲンセールをやっていて、思わぬ買い物が出来た。

等々、ストレスの量以上に、小さな幸せを見つけて、記憶に留める様に心掛けている。

父方の祖母の名前は「きん」さんで、100歳まで生きた。私はまだ、きんばあさんの半分しか生きていない。ケセラセラでこれからの半世紀も頑張っていこうと思っている。